

安全で安心なまちづくりに係る現状等から課題整理への体系

安全で安心なまちづくりに係る現状等

犯罪情勢

- ・本市の近年の刑法犯認知件数は減少傾向
- ・他市等との比較では、本市の犯罪発生率は依然として高い水準
- ・本市の刑法犯認知件数の約7割が窃盗犯
- ・平成20年では、平成16年との比較では知能犯の割合が高まった
- ・窃盗犯では、「自転車盗」、「車上ねらい」が窃盗犯の上位を占めており、これに「空き巣」を加えると窃盗犯全体の約半分（全刑法犯の約3割）となる
- ・駐車場・駐輪場、住宅での犯罪発生は減少しているが、発生場所の大きな割合を占める
- ・駅、住宅密集地、大規模集客施設等が存在する地域での犯罪発生が多い

市民の意識

- ・多くの市民が犯罪被害への不安感を抱いている
- ・「住宅への侵入窃盗」や「車上ねらい」に対する市民の不安感が高い
- ・安全で安心なまちづくりのために必要な自ら・地域の取組として、一人ひとりの防犯意識や子どもの規範意識を高めること、地域住民同士のつながりを強くすることが必要
- ・安全で安心なまちづくりのための取組として、情報の提供が必要
- ・自主防犯活動への参加意向を持つ市民は多いが、割合は若干減少
- ・防犯上の危険箇所等の改善や、ハード整備が必要
- ・犯罪被害への不安感を抱く市民が不安に感じる場所は、自宅や道路

環境の変化

- ・子どもの見守りを中心とした自主的な防犯活動の活性化
- ・犯罪被害者等に対する支援の充実

現計画の施策における課題

- ・若い世代を対象とした防犯講習会の実施
- ・防犯対策の実践に繋がるような啓発
- ・防犯ネットワークの活用による地域の防犯活動のさらなる促進（防犯ネットワークを活用した事業展開）
- ・環境点検活動に基づく危険箇所等の迅速な改善若しくは情報の共有化
- ・道路、公園及びその他の公共施設等における防犯上配慮すべき事項等の反映
- ・既存の大規模集客施設等に対する防犯に配慮した施設整備の要請
- ・事業者を対象とした事業展開
- ・学校と地域の防犯活動の連携

課題整理の視点

- 市民に身近な犯罪が問題となっている
- ・市民に身近な窃盗犯の発生が多い
- ・減少の鈍い知能犯のほとんどは詐欺
- ・身近な犯罪に対する不安感が高い

- 地域住民が一体となった活動が求められる
- ・自主防犯活動の活性化に伴い、刑法犯認知件数と市民の不安感は改善
- ・地域住民同士のつながりを強くすることが必要とされている

- 市民の生活環境を物理的に犯罪の起きにくい状態することが求められる
- ・防犯上のハード整備が必要とされている
- ・不安に感じる場所は、自宅や道路が多い
- ・現計画では、一部実施に留まっている

- 各主体の取組を、より効果的で相乗効果が期待できるようにする
- 犯罪被害者等は、地域社会の支援が不可欠

課題の整理

①市民一人ひとりの意識と取組

- ・一人ひとりの意識を高めるとともに、自らの安全を確保するための自主的な取組を促進することが重要

②地域における防犯活動

- ・地域住民の主体的な防犯活動が最も重要であるという認識のもと、その活動の継続・充実を図ることが重要

③防犯に配慮した生活環境の整備

- ・主として道路、公園等の市民に身近な公共空間ではより具体性を持たせ、実効性あるものとしていくことが重要

④各主体の連携・協力

- ・各主体の取組の充実・強化に加え、各主体が有機的に連携・協力していくことが重要
- ・犯罪被害者等の支援の体制や方策を確立させることが重要